

アジア最大の分析・計測関連総合展開催
—分析展 2010/科学機器展 2010 合同展—

本年は、社団法人日本分析機器工業会(〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-10-1 電話 03-3292-0642、会長 堀場 厚=(株)堀場製作所 代表取締役会長兼社長)が主催する分析展 2010 と、日本科学機器団体連合会(〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-8-5 電話 03-3661-5131 会長 矢澤英人=(株)ダルトン 取締役会長)主催の科学機器展 2010との合同展として、本日より9月3日まで、幕張メッセの4・5・6・7・8の5ホールを使用し、1361小間、450社・機関の規模で開催します。来場者は3万人を見込み、昨年度分析展の2万人から50%の増加を期待しています。

○本合同展は、分析機器・技術に加えて理化学機器、及びその関連技術・製品が一堂に会した、文字通り「分析・計測の入口から出口まで」の最新情報が展示された総合展示会となります。これにより、欧州の Analytica 展、米国の Pittcon 展とならぶ世界の3大分析・計測関連総合展としての地位は、なお一層確固としたものとなるでしょう。

今回の新しい展示としては、中国の友好団体 CAIA(中国分析測試協会)様が中国の有力企業を招いて China Pavilion を開設されたことと、新しいミニソリューションコーナーとカタログコーナーを設置したことがあります。台頭著しい中国企業の参画と、最新の分析機器・理化学機器に密接に関連する新進気鋭のベンチャー企業などの出展は新しい合同展にふさわしい成長といえるでしょう。また、昨年を引き続き独立行政法人 科学技術振興機構(JST)が、先端計測分析技術・機器開発事業の成果発表も行う、単なる機器展示だけではない総合的な情報発信を行う展示会となっています。

○分析展では、その大きな特長として、機器展示に加えて最新技術情報の発表を行ってまいりました。合同展でもその特長は引き継がれており、隣接するホテルで出展社が行う新技術説明会は97社302テーマを数える他、国際会議場の全館を使用しての学術コンファレンスはJAIMAが主催するコンファレンスに加えて(社)日本分析化学会様と共催する東京コンファレンスも拡大されて開催されます。また、今回始めて開催されるセッションとしては、米国 Pittcon 委員会が「単一細胞のケミカルサイトメトリー」と題した US Symposium を、また、(社)日本化学会様が二日間にわたり、防災と環境に係わるフォーラムを、それぞれ開催されます。加えて今脚光を浴びている燃料電池に関する講演会も開催されますし、会場内では理化教育フォーラムや理化学機器入門講座も開催されます。さらに、会期初日には一般の方々の参加を得てご好評をいただいているサイエンスセミナーも、例年通り開催され、本年、2010年の国際生物多様年になんで「クジラとカバは兄弟だった？」などの知識欲を刺激される興味深いテーマで行います。

○このように合同展 2010 は、分析・計測に関するアジア最大規模の展示会となり、最新の製品情報のみならず、最先端の学術的、技術的な情報も提示される世界有数の総合展となります。今回の合同展示会開催を機に、さらなるグローバル化を目指し、主催者として、出展企業にも来場者にも、共にご満足いただけるように努力してまいります。

【プレスルームのご案内】

●会場内6ホール北側に報道関係各位のプレスルームをご用意させていただきました。また、部屋内冷蔵庫には冷たいお飲み物を用意しました。セルフサービスですが、ご自由にご利用ください。

【現地事務局のご案内】

●会場内5ホール北側に主催者現地事務局を設けています。ご不明な点、お問い合わせなどございましたら、お立ち寄りください。(社)日本分析機器工業会内合同展事務局 林(はやし)/小川(おがわ)